

令和元年度 第1回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和元年度 第1回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和元年7月12日(金) 18時00分～20時00分
場所	宇治市生涯学習センター 1階 第2ホール
出席者	(委員) 榑原会長 薮副会長 雪浦委員 青木委員 内田委員 原田委員 瀬野委員 山田委員 *井戸本委員は欠席 (事務局) 岸本教育長 伊賀教育部長 上道教育副部長 市橋教育支援センター長 栗田教育総務課長 三村学校管理課長 福山教育支援課長 久泉生涯学習課長 吉田学校教育課長 渡邊学校教育課副課長 石田学校教育課総括指導主事 石田学校教育課学校教育指導主事
配付資料	令和元年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 令和元年度「中学校ブロックジョイントプランー小中一貫教育推進計画ー」

1 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局自己紹介
- ・設置要項に基づき、会長に榑原委員、副会長に薮委員を選出
- ・榑原会長挨拶
- ・薮副会長挨拶

2 報告及び協議事項

- (1) 報告1 平成30年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要
資料6頁に沿って事務局より説明
報告1についての質問・意見等と応答

(会長)

事務局からの報告について、もう少し具体的な取り組みや補足、聞きたいことなどあれば委員の方からも発言をお願いします。

(委員)

昨年の二学期の視察に行った時に体験した話をします。南宇治中ブロックには二回ほど行かせてもらい、そこで一番感じたことは、地域の特性にあった取り組みを、大変苦勞されながら一所懸命されているのに、実際のところは、保護者や地域一般の方にはあまり見えていないということでした。だから「ある所(学校)では、こんな風に(取組を)されている」など、少しでも話ができればいいと思っています。また、以前に大久保小学校(広野中ブロック)の視察に行かせてもらった時は、夏場の研修で、小学校と中学校の先生方が大久保小学校に集まり、色んな取り組みの話をされていて、大変熱心にされていると感じました。

(委員)

私も長年この協議会には関わらせていただいているので、毎年、各現場のほうにお邪魔させておりますが、昨年の視察においては、本当に小学校と中学校の先生が何の垣根もなく、実に打ち解けた形で、子どもたちのことについて話し合いをされたり、研究授業の意見を交わされていたりと、年々その小学校と中学校の垣根が低くなり、全くないとは言い難いかもしれないが、それはもう実感させていただいたのが昨年の感想です。実にコーディネーターの先生が、かなりフットワークよく中学校と

小学校の間を行き来してくれているということも、よくよく理解することができました。その成果が、先ほど言った小中の先生方に垣根がなくなっているということに繋がっているのではないかと感じました。

(会長)

これらのようなことを視察する活動も、この協議会で一貫して取り組んでいきましょう。

(2) 報告2 平成30年度小中一貫教育の取組到達状況報告

資料7頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(委員)

家庭や地域との連携の中で、家庭学習の手引きの見直しと配布とあるが、いつの時期にどのような内容で対象は誰なのかを聞きたい。

(事務局)

ブロックごとに合同研修会等で、家庭学習の手引きを作成し、改訂を進めて、配布されます。

(委員)

保護者には配布されますか。

(事務局)

児童・生徒を通して、家庭に配られています。

(委員)

全学年ですか。

(事務局)

全学年です。

(委員)

取り組みが進められたのは理解できるが、昨年度の目標に対して、いわゆる積み残しの課題はあるのかという見解はどうですか。また、大体案の通りにできているのですか。

(事務局)

説明した4項目については、計画に合わせた到達状況であると評価しています。しかし、特に学力の充実向上という点に関しては、まだまだ課題が大きく、それもふまえて、本年度よりラーニングコーディネーターを全中学校ブロックに位置付けて取り組みを始めています。

(委員)

全体を通しての話になるが、当初「小中一貫」と言い出した頃は、まず教師の連携から始まり、本当に小と中の壁が高くて、それぞれがなかなか乗り越えられず…そういう時代がありました。そこから比べると、今はもう本当に子どもの行き来だとか、教師間の垣根の低さ、全くないとは言いきれないが、小と中がそれぞれに色々な部分で性質は違うけれど本当に垣根がなくなったなあと感じています。そういう意味で、先ほど委員が取り組みの視察に行かれ、すごく良かったと言われたのは、子どもの動きが見えてきたからではないかと思います。笑い話になって記録に残るが、私はそこに20年おりましたので、そういう評価をしてもらい大変嬉しいと思っています。細かい部分でいうと、成果についてどれだけ出来たかというのはなかなか目に見えないもので難しいが、実態としては教師の連携から始まって、今本当にラーニングコーディネーターを中心に良い企画を考案し、色々なことが動き出していると感じられます。特に他地域の学校の校長間の交流をするが、やはり一歩先に出て宇治市は動いていると思います。

(委員)

今、昨年度当初の小中一貫教育の到達目標を読みながら、実際にこの到達目標(1)から(4)の状況分析なので、ある意味妥当です。個々には、まだまだ工夫しなければならない点はあるかと思いますが、ここに書かれているように、例えば「宇治学の副読本」については、導入がかなり進み改善もされています。実際今年度は、中学校の全学年の副読本が完成し実際に使用を始めているが、過渡期の到達状況を掲げるので、ここまで7年かかってやってきたなというのが実際の気持ちです。

(委員)

今回の30年度の到達状況を読み、この後が大事になると思うが、次の到達目標は決められていると読みながら思いました。最終的に、どこまで行くのか想像しながら読みました。

(会長)

学校の立場や学校側から見て、何かあったら教えてください。

(委員)

平成30年度の到達状況ということで、私は宇治中ブロックだが、小中通してやるのがものすごく多種多様、色々な可能性もある中で、やっぱりどこかひとつに集中して重点的に取り組んでいくのも大事だと思います。宇治中ブロックでは、家庭や地域との連携というのがまだまだ弱いと感じていて、今年度については何とか学力を小中一貫の視点で上げるというのが重点課題として取り組んでいるので、正直なところ、これもあれもというとなかなか、やる側としては難しいと感じています。

(会長)

今年度のことにも関わるが、先ほど全校にコーディネーターを配置するという説明であったが、やはり言葉を使うなら働き方改革というか、広い意味でのコストパフォーマンスというか、これが一時出来ただけではいけないと思うので、それこそ継続的にコンスタントに続いてほしいが、学校の苦労はなかなか踏み切れないところにあると思う。工夫すると、もう少しできる面もあるかなとか、あるいはこれはずっと目をつぶってきたが軽減してなんとかならないかとか… 来年度のことを考える、今年度のことを考える上で、アイデアとかご意見があれば頂戴したい。

(委員)

学校によっては、それぞれ取り組みが違うというものの来年度から学習指導要領が変わる中で、やはり学力に重点を置き、多くの学校が学力向上を目指し様々な改善を進め、学校は動いています。そういう意味で、ラーニングコーディネーターが学力向上に向けて、今、国語力というか、国語の力、読む力、読解力、そういった部分で重点的に動いています。私どもの一貫校とはまた違う他の小学校中学校の、この繋がりが学力をどう捉えていくかをラーニングコーディネーター中心に話が進み始めているので、コーディネーターとしても同じ方向で進めているところです。ラーニングコーディネーターの位置づけは大きいので、色々聞いてもらえるといい。

(委員)

去年の到達状況からすると、これまでの取り組みや過程を経て、宇治市は学力向上を進めたが、ある一面的な指標である。そんな状況の中で、どのような力をつけるかということで、ラーニングコーディネーターの配置を段階的に進め、今年度からは全ての中学校ブロックに配置されることになり、例えば、中学校会長の立場ではあるが、榎島中ブロックの校長と各部会が学力をどう捉えるかということ、3つの学校、3つの校区、榎島小学校と北榎島小学校と榎島中学校で考え始めています。以前なら考えられないような、小学校と中学校が学力をどう捉えるかという話ができるようになってきました。それが大きい。実際、ラーニングコーディネーターをはじめコーディネーターが中心にその時間を取り、9年間でどんなふうに最後の出口(中学校3年生)を迎えようか、そのためには小学校でどんな事ができるかというような議論ができるようになってきました。施設一体型でも分散校でもこういうことができるようになったことは、系統的・継続的にある意味順序よく色々進められていると思っています。とにかく以前は考えられなかったことができるようになったことが大きい。

(会長)

具体的にイメージできる話でした。

(3) 報告・協議3 令和元年度小中一貫教育推進協議会の活動について(案)

資料8頁に沿って事務局より説明

報告・協議3について質問・意見等と応答

(委員)

毎年何回か視察に行く機会があり、最初の頃は、何を言ったらいいのかわからず、取り組みのやっていることはわかるが、どんな取り組みを見てもなにかお客様みたいな感じの印象でした。しかし回を重ねる中で、ひろの学園(広野中ブロック)に二度目行かせてもらい、この小中一貫教育の取り組みがカチッとした感じで十何年続いていることを感じました。この視察の取り組みは当初から順番に

回っていて、今は一巡した感じがあります。最初の頃にコーディネーターの先生の話だったかと思うが、取り組み内容というのは十年ぐらい経つてくると、当初の考えと違ってくることがあると言われていた。視察後の意見交流で、取り組みの中身は一応これまでにできているが、もうひとつこれからの取り組みとして中に入っていくような感じで、細かい所に気を配っていかないといけないというのを聞いた時、それは大切だなあと思い、コーディネーターの先生方は大変だなあと思うが、今年は中学校ブロックにラーニングコーディネーターがおられるということで、仕事量を考えると少しは楽になるのかなと思う。結局、今まで通りのことをしているのではなくて、もうひとつ踏み込んだ取り組みにしていけないといけないのではないかな。全部の取り組みを同じようにはできないが、何かに絞ってでもいいし、ひとつずつ進めていくように取り組んでいくと言われました。

(会長)

そういった活動を学校が進めていく様子を見てみたいという感じですか。

(委員)

今度、視察した時に地域の特性はあるが、その先をどう伸ばし合ったり、学力向上のためにどうしているのか、どういう取り組みが去年と違うのか、というような深い所を今度は見せてもらえるかなと期待しています。

(会長)

先ほど委員から、学力に関して小中がここまで議論できるようになったという旨を聞いたが、より教育内容や学校の活動に即して、小中や地域の違いをふまえながらも、小学校だからとか地域だからということではなく、本音と言うか、話ができる取り組みを期待したい。

(委員)

毎回現場に伺い、その都度、校長先生やコーディネーターの先生が、当日色んな行事が立て込んでいるにも関わらず、我々の為に時間を取って色んなレクチャーをしてもらい申し訳ないというのが正直な所で、どうぞ生徒たち子どもたちに関わってあげてくださいと思う所です。が、それを聞くのと聞かないのとでは現場の様子の見方が全然違うので、むしろありがたい。コーディネーターの先生方の負担がないような形で、事前のレクチャーが受けられないかと思えます。

(会長)

それは、学校に伺わなくてもよいということですか。

(委員)

毎回、今年の課題はこうで、こういう取り組みで、今日はこういう狙いを持って、こんな行事をやっているという話をしてもらう。それは、現場を視察していても、こういう意図でこの取り組みがなされているということはよく理解できるが、我々のためだけに時間を取ってもらうことがすごく申し訳ないと、正直、毎回感じていました。特に去年はそう思いました。

(会長)

事務局から後に説明をもらうが、ブロックごとのジョイントプランだけでは、わからないし…

(委員)

生の声で話を聞くのと、文字を読んでいるのとでは全然入ってくる情報が違う。何か改善できればと思います。

(委員)

これまで一人で視察させてもらうのも気の毒で申し訳ないと思っていて、それならみんな一緒に行きましようみたいな形で行くほうがいい。でも、そうすると回数や行く場所が少なくなるので、誰か一緒に行かせてもらいたい。

(会長)

我々が学校に伺う話の提案かと思うが、それこそ気軽な学校訪問は本年度も予定されていますか。

(事務局)

今話されている各中学校ブロックの取り組みは、別紙の表面に記載されています。裏面は、宇治市内の各小・中学校が2学期に予定されている学校行事を記載しています。日付が入っているので参考にしてください。

(委員)

この2学期に予定されている学校行事に、我々も行ってもよいということですか。

(事務局)

構いません。

(会長)

という形で用意されています。どれに参加してもいいようですが一報は入れましょう。

(事務局)

事務局に気軽に連絡ください。

(委員)

この裏面の記載については、地域からのフリーな参観なども含めて入っているので、事務局に一報入れて頂くのと、学校現場としては、本当に来て見てもらうというのはとても嬉しいことです。たとえば本校(檜島中)なら、11月の8日に山城教育実践フォーラムを開催します。これは府教委の取り組みではあるが、興味があったら見に来てもらうのは全くやぶさかではないし、他の学校も同じだと思うので、そこは事務局に一報さえ入れてもらえたら、それこそ自由に来てください。

(会長)

どんな感じかわかりにくいので、視察させてもらうと色々教えてもらえる。受けてみて形にし、理解していくのはどうですか。学校(迎える側)として、こんな感じで来てほしいとかありますか。

(委員)

「お出迎えは…」という話があったが、学校としては、せっかく見に来てもらえるならば、こういう思いでやっているということをお伝えたいと思うし、そこは特に負担はありません。知ってもらえるいい機会だと捉えています。

(会長)

これはずっと課題というか難しいところだが、色々事務局のほうで準備され、リストも作ってあるが、なかなか委員が行けない部分もあります。昨年度の総括でもあったかと思うが、実際的には一回、二回ぐらいしか行けません。忙しい方ばかりだが、ぜひ手帳に予定を書きいただき「今日行こうか」みたいな感じで参加してください。学校も基本的には喜んでもらえ、伺えるというのは本当に貴重な機会だと思うので、なるべく複数回、ぜひ何回とは言えないが、なるべく皆さん参加してほしいと思います。忙しいとは思いますが、お願いできればと思います。

(4) 報告・協議4 令和元年度小中一貫教育の取組について

資料(9頁～)により事務局より説明

報告・協議4について質問・意見等と応答

(委員)

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実の項目3行目の「新たな学力対策の推進」というのは、どういうことを想定されているのですか。

(事務局)

従来より宇治市は児童生徒の学力向上を意識していますが、昨年度、小中一貫教育の中でその取り組みを進めるうえで焦点化する方針をあげました。宇治市として、学力全体の捉え方は様々ですが、どこか焦点を絞って進めていくということで、全ての学力の基礎となる国語力、言語能力の向上に向けて取り組みます。これもひとつの学力の指標となりますが、全国学力学習状況調査や京都府が主催する学力診断テストにおいて、なかなか平均に満たない層の児童生徒に焦点を絞り、学力の向上を目指して宇治市教育委員会と校長会との共同で新たなプランを立案し、今年度の下半期より本格的な取り組みを進めることを指しています。

(会長)

いわゆる底上げの意味で理解してよろしいか。もうひとつ…(3) 家庭や地域との連携の項目4行目の「家庭学習に取り組める環境の構築」とはどういうことですか。

(事務局)

学力対策とも関連するところで、学校だけでなく家庭あるいは地域にも協力を求めるということです。学校は学力対策に当然取り組みますが、昨年度の到達状況の中にもあったように、家庭学習に視

点を置いた取り組みで連携が図られており、その手法のひとつとして、中学校ブロックごとに「家庭学習の手引き」を作成あるいは改定し、それを配布し、学校が求める家庭学習のあり方を家庭にも発信することで、そういった環境づくりを家庭等で協力してほしいという意味合いを指しています。

(委員)

同じ箇所、小学校から中学校に上がる時期に、中学校で入学説明会があると思うが、その場では制服がこうだとか、小学校は給食だけど中学校は弁当になるとか、そういう事務的な話が主流だと思う。実際は小中一貫で、複数の小学校からひとつの中学校に入学するところをスムーズにしようと思えば、中学校の側から6年生の子どもたちにはこういった学力を最低限つけてほしいとか、こういう生活態度や生活習慣を身に備えて欲しいということを保護者に本当は頼みたいのではないかと思う。そういった話を、12月頃の体験入学(説明会)で伝えるのは若干遅い気がするし、多分時間が取れないと思うが、もっと早い段階から親に話す機会を設ければ、小学校・中学校での親の意識としてもっと一貫教育を理解してもらえないのではないかと思う。

(委員)

小学校PTAの理事の方が中学校PTAの理事の方に「小学校から中学校に入学する時に、何か説明があったか」と尋ねると、説明会はあったけれど、今の中学校はこういう状態だとか「制服が変わる、制服はこんなのだ」ということになるので、学校から生徒指導・学習指導について、ここをこうお願いしたいというようなことはなかったと聞きました。学習指導は小学校と中学校の先生が今は連携がすごく取れているので、学力についてはおそらく揃えられるのではないかと思う。しかし、生徒指導については、例えば中学校は制服で、その制服は今日着たものを明日も当然着るので汚せない、小学校の時は帰ったらそのまま遊びに行き泥だらけになって帰ってきても次の日は新しいものを着ればいいわけで、中学校はそういうわけにはいかないという当たり前のことを、生活態度・生活習慣というところで、中学校の先生が小学生の親にある程度の指導をしたほうがよいのではないのでしょうか。あくまでも制服は一例ですが…

(会長)

小学校から中学校に上がる6年生の保護者を対象に、中学校から説明会や媒体というかお知らせのような形で、何らかの方法で中学校での生活や学習に取り組む心積もりを含めて準備してほしいというようなメッセージがもっと発信されてもいいのではないかと思います。

(委員)

そういう連携ができればいい。

(事務局)

全ての学校において、そのようなことが執り行われているということは言い切れませんが、小学校の授業参観後の6年生の学年懇談会等において、中学校の先生が小学校に出向き「中学校の学習(中学校卒業後の進路)について」や「生徒(生活)指導面について」話をする取り組みがいくつかの中学校ブロックで行われている実態はあります。このような取り組みは貴重な機会と捉え、是非広めて行きたいと考えています。

(会長)

現場の中学校としてはどうですか。

(委員)

中学校の勉強はこうだから、こういう所の力をつけたほうがいいという話はするかもしれませんが。しかし実際、小学生は小学生なので直接的にその保護者に話をするのは小学校の先生がされるほうがよいのではないかと思います。そのために小学校の教員と中学校の教員が絶えず連携を取っているので、「中学校はこうですよ」と目の前の子どもたちやその親御さんに対しては、基本は小学校の担任の先生や学年の先生が話されるのがよいのではないかと思います。ただ、中学校の入学説明会では当然のことながら話はするし、6年児童の体験入学では中学校の教員が模擬授業をし、その中で、例えば遅刻の話についてはかなり丁寧にします。時期的にそれが早い遅いとなると、確かに遅いところはあるかもしれないが、一義的には小学校の担任の先生などが、まず小・中学校との連携の中で得た情報の中から話をされるのがよいのではないかと思います。

(委員)

第2項目中の「児童生徒の人間関係を豊かにするため」という所が気になりました。小学校間とか小中学校間の先生方の交流はすごくされているし、小学6年生と中学生、中学生が小学校に出向いて交流するのはあるみたいだが、例えば、同じ中学校へ行く小学生同士や別々の小学校に行く6年生同士が、どこかで会う機会はあるのですか。地域の行事以外で会うことなく中学校に入って初めて出会うというのは何とか手がないかなと思います。知らない人が半分もいる中学校に行くのは…

(会長)

小小連携の感じでしょうか。

(委員)

現場の声から言いますと、確かに今の小中連携をする前提は小小連携だと思っています。以前はあまり重視していなかったが、例えば小学校Aと小学校Bから上がってくるならば、その前段階で、例えばAとBが一堂に会して何か取り組みを一緒にするとか、ゲームなどを一緒にしようという取り組みをしているところは結構あります。体験学習の時に、そういうことをするケースも多々あります。また、子どもが直接出会わなくても、授業などで同じような形で指導しようかなどと、小学校の教員同士が連携を取って（小小連携）、大人同士の連携も進めている。それが十分であるかどうかとなると、まだまだ途上かもしれないが、以前は全くなかった小小連携を意識しているのが今の学校現場にはあります。

(委員)

例えば、山間地の笠取小学校や笠取第二小学校の子どもたちは、特認校以外の子は木幡中学校に進学するが、年間計画の中で御蔵山小学校あるいは木幡小学校で一日中一緒に授業を受けたり、体験交流をしたり、大きな学校の子どもたちといわゆる山間地の子どもたちが一緒になって小小連携することで、あとの中学校進学へのスムーズな連携を想定しています。これは以前から執り行われていることですが、ぜひこの場で紹介したいと思いました。

(委員)

先ほどの話は地元なので、子どもたちの様子はよく見ているが、木幡中学校へ行く子どもは、御蔵山小や木幡小の子たちと一緒に連携を取っています。「自分は木幡中でなく〇〇中へ行く」「地域を変えられたらいいのに」などという子もいるが、やはり本来校に行けるように、まめに連携されています。子どもたちの感想から言うと、やはり初めは「〇〇さん、見たことあるね」というぐらいだが、全然孤立しないというか、いい感じになっていると思います。

(会長)

小学校の教員の立場から、小学生はどんな風を感じているのでしょうか。

(委員)

少し話は戻りますが、宇治中ブロックでは、小学生の保護者向けに中学校の先生に来ていただき、授業参観のあとの懇談会で話をする時間を取っています。保護者が聞きたい情報は、いわゆる中学校の出口が高校入試に関係するので、そういうところから勉強（学習）のことや保護者が不安に思っていることに添うような話をしてもらっています。毎回たくさんの保護者が参加され、普段の懇談会ではパラパラと帰って行かれるが、中学校の先生が来てそのような話をされると、ものすごく興味関心があって残られます。このような様子から、とても意味がある取り組みだと感じており、引き続き開催していきます。

(会長)

それでは、これまでの提案に従った活動を目指し、進捗管理と言いますか、見せていただくということで進めていきたいと思っています。

- (5) 報告5 小中一貫教育についてのアンケートについて
- 資料(16頁～)により事務局より説明
- 報告5について質問・意見等と応答

(会長)

はからずも今日が締め切りですが、集まっていますか。

(事務局)

集まっています。

(会長)

総数は何人、何件くらいありそうですか。事務局の負担軽減はどのくらいされましたか。

(事務局)

昨年度までは、小中5学年分の児童生徒数が2,500人くらいなので、その保護者も2,500人として…今年度は、アンケート対象学年を変更したので、小中3学年分の児童生徒及びその保護者、学校の3種で…

(会長)

なんだかずいぶん減りましたね。

(委員)

去年の数字を見ると、一学年単位で子どもの回答数は大体400から700、保護者の回答数は330から650くらいです。

(会長)

事務局からの補足はありますか。

(事務局)

アンケート数は、大体去年で4,900です。そのうちの対象が小中5学年分だったものが、小中3学年分になったので、単純に5分の3になったということになります。

(会長)

つまり5,000くらいだったところから3,000（実際は3,500程）くらいになったという感じですね。

(6) 委員による視察について

別紙1より事務局より説明
質問等に応答

(会長)

星印(★)はおすすめということですね。忙しい委員さんばかりなので、どの取り組みが大体何時頃かなどは、午前か午後かでも、教えてほしい。

(事務局)

土曜日を除いて、平日開催のブロック行事は午後で、大体5時間目以降の取り組みが多いです。

(会長)

大体14時くらいというイメージでよろしいか。そこから16時～17時までという感じですね。

(委員)

各ブロックでの合同研修会は、具体的にどのような内容のものですか。

(事務局)

ブロックごとに、中身については様々だと思うが、小学校・中学校の教員がブロックの学校に集まって、授業改善などを相談する研修会です。

(委員)

そこに行った場合、書いてあるように一緒に会議に参加するのですか。

(事務局)

夏休み中の合同研修会は、教員が集まってグループに分かれて会議・研究等をしたり、2学期に行われる合同研修会は、授業参観であったり子どもたちの様子を見てもらう形の取り組みが多いです。

(委員)

以前体験させてもらった合同研修会は広野中ブロックだったと思うが、最初にコーディネーターの先生が前で全体説明をされ、その後小学校の先生と中学校の先生がある程度の班に分かれて色んな問題点とかを話されるのを傍から見ていました。一緒になって「いや、こうだ」とかまでは、できませんでした。入ってしまうと何を言っているのかわからなくなる感じでした。

(会長)

合同研修会は、部会というか、教科とか領域に分かれて、何部屋もが同時進行でされるでしょう。

(委員)

現場のほうから発言させてもらいます。

(委員)

別紙1に記載されている合同研修会でマーク(★)がついているということは、ぜひ行かれたら…と思う取り組みです。他の8月開催の合同研修会は、各学校によってテーマは違うが、場合によっては何かひとつのテーマで講師を呼び、その後、各テーブルに7～8人のグループで協議します。そのテーマは学力であったり、規範意識の生徒指導面であったり、また全く違うような話だったりとまちまちです。そういう意味では、小中の先生方が一緒に喋っている雰囲気味わってもらえると思います。ここに星マーク(★)がひとつも付いていないということは、横に居て参観しているだけというようになってしまいがちなので、こういう研修会を見に来てほしいというのがあれば一番いい。これだけでは正直分からないが、宇治中ブロックには星マーク(★)が付いているので、何かセールスポイントがあるのでしょうか。

(会長)

戻るが、夏休み中の研修会も午後ですか。

(事務局)

各ブロックにより、午前のところもあります。

(事務局)

おそらく早い段階(8・9月)の取り組みは、7月中に時間・内容の詳細が入ってくるので、それを含めて、事務局に問い合わせいただければ返事はできます。

(会長)

では、できれば複数ヶ所、お互い忙しい方ばかりですが、別紙1裏面の行事も含めて行っていただければ、喜んでいただけるのではないかと思います。特に、宇治市にお住まいで、その辺の地域には詳しいという以外のところにも行っていただくと「こんなに宇治は広いんだ」とか「地域で色々違うんだな」と思われるかもしれませんし… よろしくお願ひします。

(7) その他

事務局より説明
質問等に応答

(事務局)

教育総務課から、西小倉地域の小中学校のあり方検討委員会について報告をさせていただきます。現在、地元の西小倉自治連合会が主体となって、西小倉地域の小中学校のあり方検討委員会を立ち上げられ、小中一貫校を含めた議論をされておられます。教育委員会もオブザーバーとして参加をしております、引き続き地元のほうでは議論されて参ります。西小倉地域の小中学校のあり方については、最終的にはどういう意見とか要望をされるのか、議論の次第にはよりますけれど、今後においては各委員のご意見などもお聞きする時があるかもしれませんので、その際にはよろしくお願ひしたいと考えております。

(会長)

どのくらい聞いていいのかわからないが、どんな話をどれくらい我々が知っておくべきでしょう…

(事務局)

地元の自治連合会が主体となって検討されておられ、市教委はオブザーバーとしては入っているのですが、たとえば地元のほうで質問があった時には答えたり、という状況です。具体的にどうこういう所まで入っていないのが現状です。

(委員)

あり方の検討委員会が発足して立ち上がったというのは、やっぱりそれなりの課題があったからこそだと思うのですが、こういう話し合いが持たれるようになったのは、どこから端を発していると理解したら良いのでしょうか。

(事務局)

最初につきましては、7～8年前になりますが、(平成)23年当時、地元のほうから、当時西小

倉地域に小中一貫校の要望をいただいた経過がございます。その要望について再度地元のほうに意見をお聞きするような形で投げかけさせていただいたところ、検討委員会を立ち上げるということを決められましたので、再度議論をされているような状態であります。

(会長)

協議会の委員としては何かあるのだなということ、どのくらい知っておいたら良いのですか。

(事務局)

具体的にどうこうというところはまだ委員さんにはないと思っております。ただ今後において、この第1回目での今後の活動計画でいきますと第2回目は来年の2月3月ぐらいになってきますので、全然知らない間に進んでいるということも具合が悪いかなという部分で、一応こういった動きがあるということを知っておいていただくということで理解をいただければと思っております。

(会長)

では、小中一貫校に関係して何かが進んでいるような話を聞きました、ということで良いですか。

(委員)

すでに私が関わらせていただいている地元は、施設一体型の小中一貫校として現存するわけです。宇治市の取り組みとして、小中一貫教育をこの7年間推進してこられた中で、色々な形態があることのメリット・デメリットもこの協議会で色々と話をしてきたわけです。その中で、それぞれ色々な評価があるかとは思いますが、私の思いとしては、やはり一体型の学校というのが正直アドバンテージをいただいているのではないかという気がします。それもぜひPRしておいてほしいと思うところですけど、昨日もまた日本の人口動態の報道がされていて、10年連続日本の人口が減っているということと、さらに加速度的にこれから減少が顕著になっていくという報道に触れた時、時代を担っていく子どもたちの教育というものが、より一層重要性を帯びてくると思っておりますので、そんな将来の見通しを持った時には色々なものを教育に集中していくというやり方が、望ましいのではないかという思いを持っています。またこういった場で色々と意見交換も必要かと思いますが、ぜひ何かこう具体的な形になってきた時には、これまでの小中一貫教育の、特に施設一体型の良い点をPRできるものがこの協議会には蓄積されていると思っておりますので、ぜひ反映していただきたいと思っております。黄檗学園だけでしたら競争相手もいませんし、比較検討するのなんだからひとつだけぼっかり浮き上がっているような状況なので、宇治市全体の底上げということにおいても、2校目の施設(一体型)があってもいいかなと思います。

(会長)

その西小倉の地域で、地元のほうからこういう小中一貫の学校のあり方について議論というかお話しがされていて、教育委員会も何か必要に応じて対応されている状況が生まれているということを知っておいてくださいということでもよろしいですね。

(委員)

誘導するのも変ですが、ぜひ二つ目三つ目の(小中一貫教育の)施設を作って欲しいと思っております。良い流れを作ってもらいたい。

(会長)

では、その他、確認しておきたいことや知っておいてほしいなどということがあったら、どうぞ。

(委員)

視察について、希望用紙の提出はいつまでですか。

(事務局)

7月中に提出いただき、各学校に連絡して調整します。

(会長)

視察について、学校の教員の立場から何かここは是非知っておいてほしい事などがあれば…

(委員)

宇治中ブロックになりますが、お手柔らかに… 良いプレッシャーをお願いします。

(委員)

ぜひ黄檗学園を見に来てください。別紙1に星印(★)は付いていないが、ホームページもしっかり作っているので、いつ何時でも結構です。本年度、宇治市小中学校32人の校長を代表しまして、教

育委員会の力を借り援助もあって、ホームページが全校統一版になりました。昨年度までは、小中学校独自のホームページで、やらない所はとことんやらない、やる所は熱心だと… この差が非常に激しかったので、それではいけないということでフォームを統一し、発信できるようになっています。昨年度に比べて多くの学校はホームページをよく公開しているので、ぜひ見ていただき、参考にしてください。黄檗学園にはぜひお越しくください。

(会長)

もう8年ですか… これまでの蓄積がある協議会ではありますけれど、気持ち新たに、もっと切り分けて入っていけるような話もありましたが、本当に忙しい中恐縮ですが、複数ヶ所色んな所で短時間でも覗いていただき、「こんなことをされているんだなあ」ということを評価いただくと大変有難いと思います。色んな所でお会いできればと思っておりますので、ご協力のほど重ねてよろしくお願いいたします。以上を持ちまして審議・報告を終わりたいと思います。

(事務局)

事務連絡事項の説明

本日の議論につきましては、冒頭にお話した通り、要約という形【会議録】で作成します。また、内容を整理した上で各委員のほうに確認していただきますのでよろしくお願い致します。

3 閉会

伊賀部長より閉会の挨拶